有限会社小川商店

第三者承継した整備工場にスキャンツール導入 電子制御装置の整備を行う新制度「自動車特定整備制度」への対応が可能に 需要拡大し、スタッフも増員。地域サービスの一層向上へ

■事業
「特定整備指定工場」認定に伴う新サービス提供による販路拡大

■対象類型
革新的サービス

■導入機械装置
ファンタスリフト　WBSC32KV、ファンタスⅡリフト　BSC32KUVL、
溶接機インテリジェント　タクティスキューシーYSI−20D、スキャンツールG−Scan3　G3SJ01

経営理念　お客様、会社、社員、社会―4つの満足を追求します。

創業は北前船寄港地での廻船問屋 時代に応じてビジネスモデルを変化

鉱山遺跡としてアジアで初めて世界遺産に認定された石見銀山。最盛期には日本最大の産出量を誇った銀山から約20㌔の地に、銀の積み出し港として栄えた大田市温泉津町がある。江戸時代には日本海沿岸の北前船航路の結節点となって北海道と商都大阪を結び、さらに繁栄を極めた。

この北前船の船乗りを相手にした廻船問屋で創業したのが、有限会社小川商店だ。その後、木材問屋や旅館、底引き網漁業を手掛けるなど、時代の流れに応じてビジネスモデルを変容させてきた。現在は、2カ所のガソリンスタンド運営を中心とする石油部門や、運搬からレッカーまで各種大型車両での作業を担う運輸部門、温泉街でスーパーや飲食店を運営する飲食部門など7事業7部門を展開している。

自動車整備工場を第三者承継 「自動車特定整備制度」認証を受け、新需要にも対応

近年、力を入れているのが第三者承継で、2020（令和2）年には自動車整備工場を承継。カーライフをトータルサポートできる会社は島根県西部では極めて少なく、日常生活に不可欠な車の整備という“インフラ”を守りたいと思う気持ちも強かった。同年には、センサーやコンピューターなどの電子制御装置の整備を行う新制度「自動車特定整備制度」がスタート。将来的に需要増が予測される自動車特定整備制度の認証工場への転換を図ろうと考えた。

そこで、本事業を活用して電子制御装置の故障診断を行えるスキャンツールを新たに導入し、自動車特定整備制度への対応を可能にした。近年、新車の多くに装備されている衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などの点検にも対応でき、他社との差別化を図れるようになった。

さらに、幅広い車種に対応できるリフトや移動式分離型のポータブルスポット溶接機を導入。リフトにより設置から出庫までの作業時間が短縮し、溶接機と併用することでリフトアップした車輌下での溶接作業も可能となり、顧客ニーズへの対応と作業効率性が向上した。


代表取締役　小川知興


1


2


3

1　ファンタスリフトを使って洗車
2　スキャンツールで電子制御装置の故障診断を実施
3　導入した溶接機を使って作業するスタッフ

承継時に4人だったスタッフを17人にまで増員し、内11人は2級整備士の資格を持つ。残業無し、ノルマ無し、工具無料貸与など働きやすい環境を整えたこともあり、市内外から技術力のあるスタッフが集まり、2021（令和3）年には自動車特定整備制度の認証を取得した。

事業を担える経営者を育て 地域のサービス・雇用維持を

地方を中心に人口減少が大きな課題となる中、小川社長は「みんなで生き残らなければならない」と声を大にする。「後継者という理由だけで経営者になれる時代ではない。それぞれの技術や知識を十分生かせる仕組みづくりが大事。今後は後継者のブランディングや社内創業などにも挑戦しつつ、雇用や利便性の確保という点でも第三者承継に力を注いでいきたい」と話す。

経営者の高齢化が進む中、中小企業の事業承継は深刻な課題であり、廃業に至るケースも少なくない。地元企業の撤退は地域経済全体にも大きな影響を与える。小川社長は「うまく承継することで経営者は“ハッピーリタイヤ”できるし、引き継いだ事業者はベースがあるので売り上げも見込みやく、スムーズに再発進することができる。新たなリソースを投入して社業をリノベーションし、1+1で4や5を狙っている」と力を込める。

Company Data

有限会社小川商店



㈱ENEOS福光給油所（大田市温泉津町）

代表者名：小川　知興
設立年：1965（昭和40）年
資本金：10,000千円
従業員数：71名
主たる業種：その他の小売業
本社：〒699-2501 大田市温泉津町温泉津ロ65
電話：0855-65-2636
FAX：0855-65-2637
URL:https://www.t-ogawa.com/